参　考　手　本

※これは規定課題ではありません。

参　考　手　本

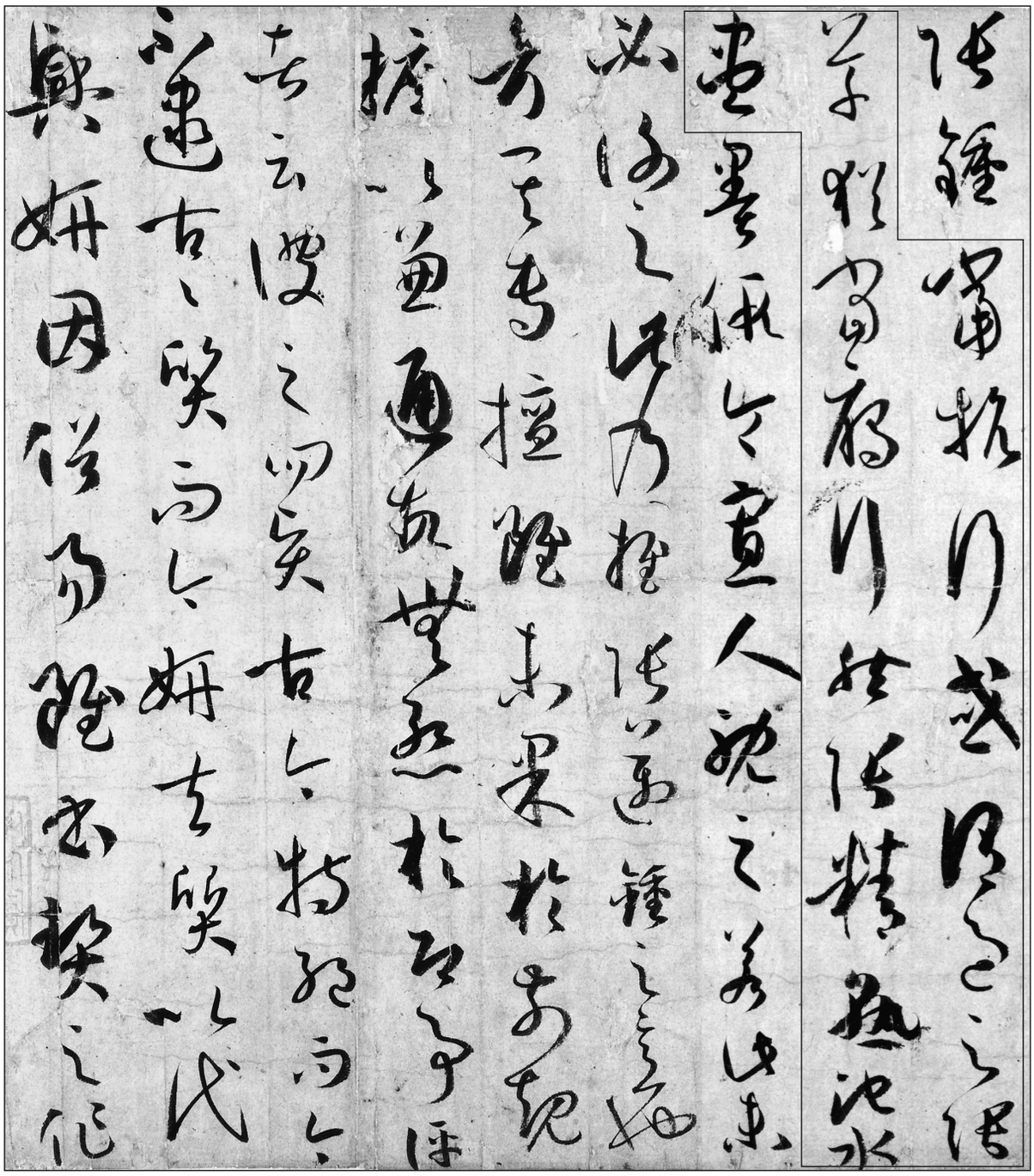
賤近にして貴遠（せんきんにしてきえん）

高木聖雨先生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A部（準五段以上）
B部（四段～準三段）



条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

『書譜』　孫過庭

張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當雁行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耻之若此。未必謝之。此乃推張邁鍾之意也。考其專擅。雖未果於前規。摭以兼通。故無慙於即事。評者云。彼之四賢。古今特絶。而今不逮古。古質而今妍。夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。

鍾には当に抗行すべく、或いは謂えらく、之に過ぎんと。張の草には猶当に雁行すべきも、然れども張は精熟して、池水尽く墨となる。仮令寡人之に耻ること此くの如くんば、未だ必ずしも之に謝じずと。此れ乃ち張を推して鍾に邁ぐとするの意なり。其の専擅を考うるに、未だ前規より果ならずと雖も、摭りて以て兼ね通ず。故に即時に慙ずる無し。評者云く、彼の四賢は、古今の特絶にして、而して今の古に逮ばざるは、古は質にして今は妍なればなりと。夫れ質は代を以て興り、妍は俗に因りて易わる。書契の作るや、

【今月の課題】

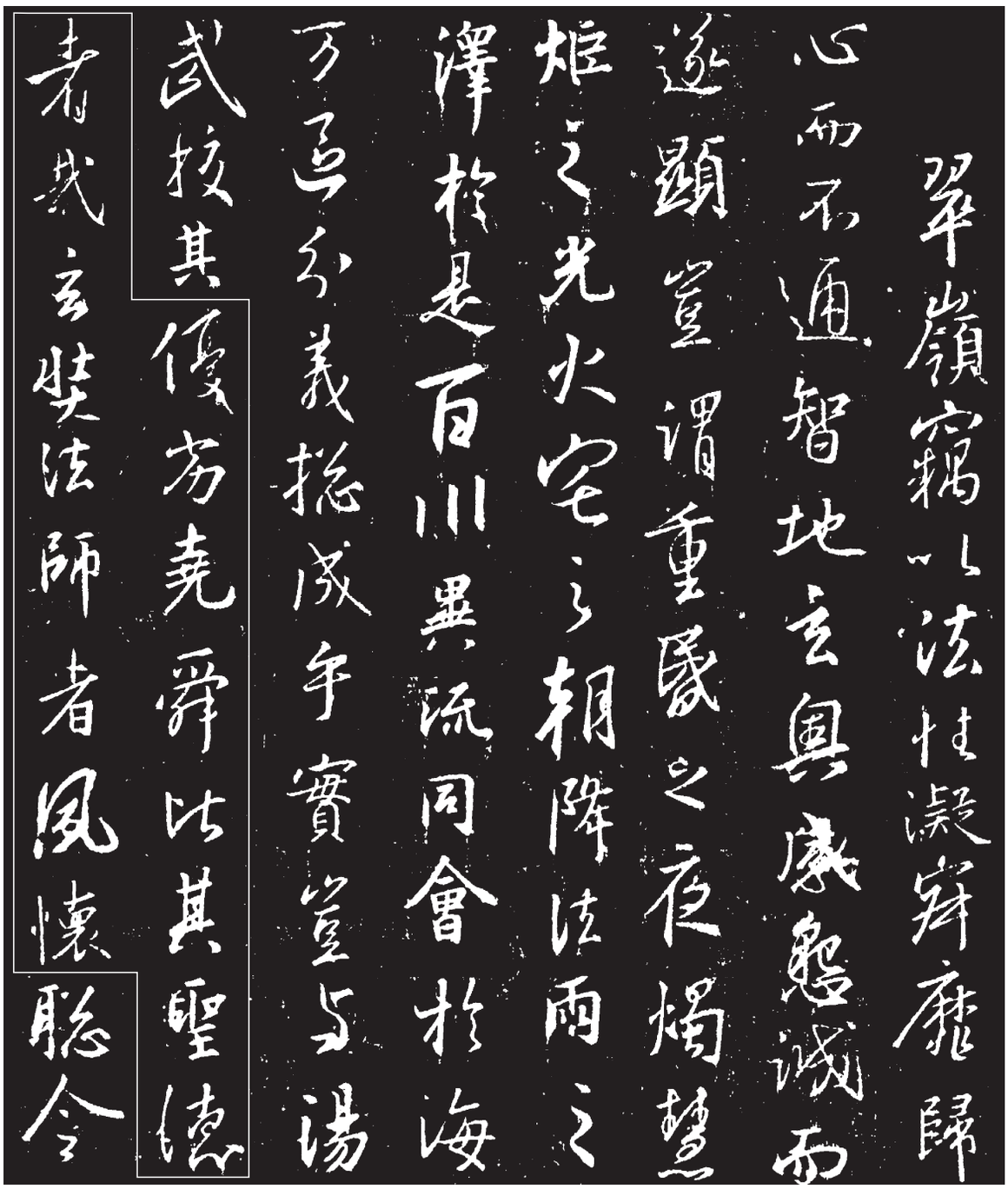
「當抗行。或謂過之。張草猶當雁行。然張精熟。池水盡」（20字）

（11月10日締切）

条幅規定

C部（二段以下）

『集字聖教序』　王羲之



翠嶺。竊以法性凝寂。靡歸心而不通。智地玄奥。感懇誠而遂顯。豈謂重昏之夜。燭慧炬之光。火宅之朝。降法雨之澤。於是百川異流。同會於海。萬區分義。總成乎實。豈與湯武校其優劣。堯舜比其聖徳者哉。玄奘法師者。夙懐聡令。

翠嶺に接せしむ。窃かに以みるに法性は凝寂なるも、帰心して通ぜざる靡く、智地は玄奥なるも、懇誠に感じて遂に顕わる。豈に謂わんや重昏の夜、慧炉の火を燭し、火宅の朝、法雨の沢を降すと。是に於いて百川は流を異にするも、同に海に会し、万区は義を分つも、総べて実を成す。豈に湯武と其の優劣を校べ、堯舜と其の聖徳を比ぶる者ならんや。玄奘法師という者は、夙に聡令を懐き、

【今月の課題】

「優劣。堯舜比其聖徳者哉。玄奘法師者。夙懐」

（17字）

（11月10日締切）

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

半紙規定 (一)

曹全碑（漢・作者不詳）

敞王畢等恤

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

王敞（おうしょう）、王畢（おうひつ）等に、恤民（じゅつみん）の

半紙規定 (二)

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

朕理猶滞爰

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隷書　〔一級以下〕楷書

朕理（そうり）猶（な）お滞せり。爰に

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

（11月10日締切）

条幅参考手本

古木叢青靄　遙天浸白波　下方城郭近　鐘磬雑笙歌
古木青靄に叢り　遙天白波を浸す　下方城郭近し　鐘磬笙歌に雑わる

森亜希子先生

秋風吹木葉　還似洞庭波　常山臨代郡　亭障繞黄河
秋風木葉を吹けば　還た洞庭の波に似たり　常山代郡に臨み　亭障黄河を繞る

田邊紅園先生

条幅参考手本

渡辺景雲先生

平生畏長夏　一念願清秋　如何遇秋至　不喜却成愁

平生長夏を畏れ　一念清秋を願う　如何ぞ秋の至るに遇えば　喜ばずして却って愁いを成すや

条幅かな

浮乗清郷先生

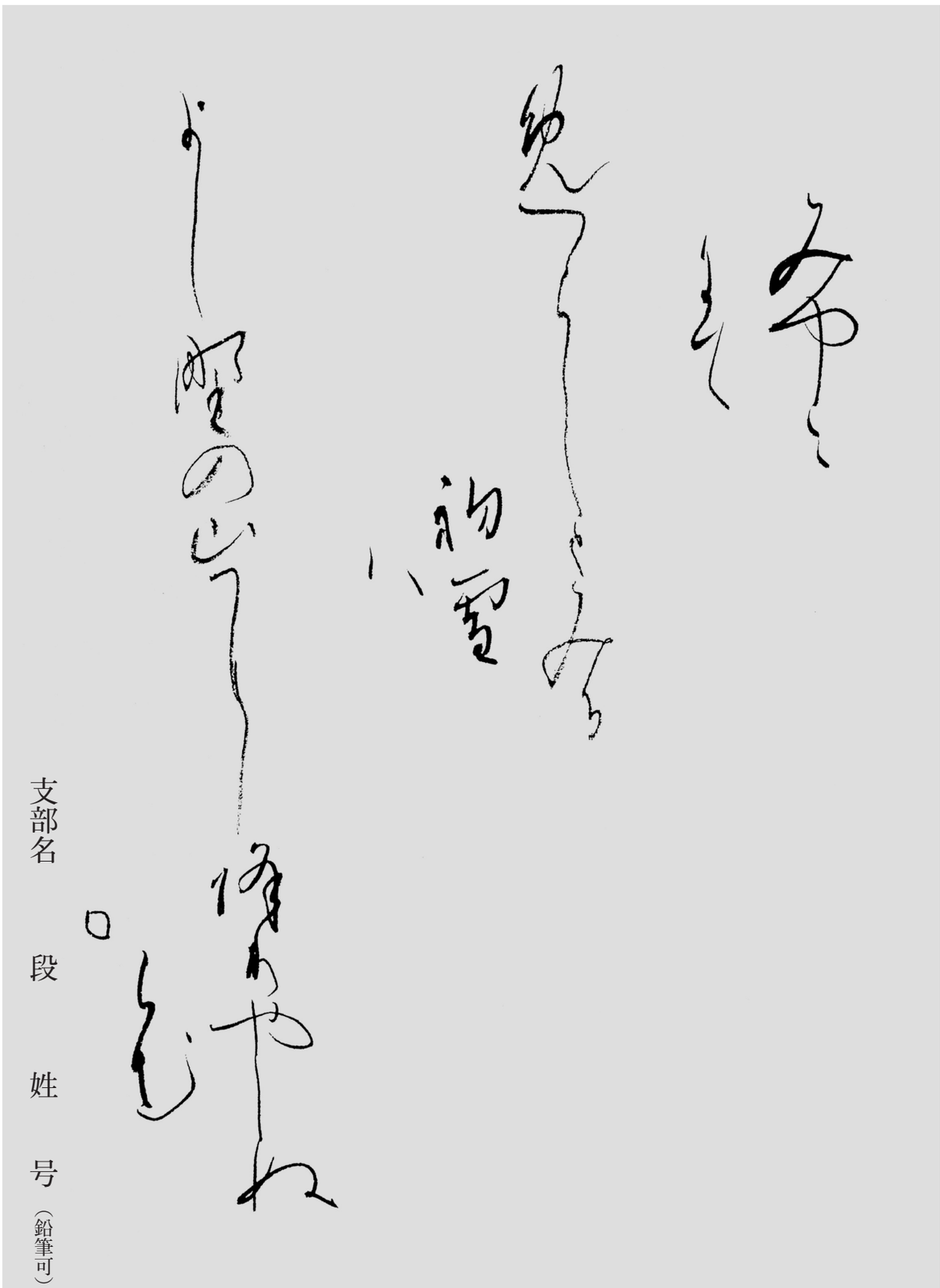
しぐれつる木の下露は音づれて山路の末に雲ぞなり行く（宮内卿）

四九連　し多八連　や萬遅須系耳　所奈利遊具

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

都にてめづらしとみる初雪は吉野の山にふりやしぬらむ（源景明）
（爾免　八耳降利）



支部名　　段　　姓　　号（鉛筆可）

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由

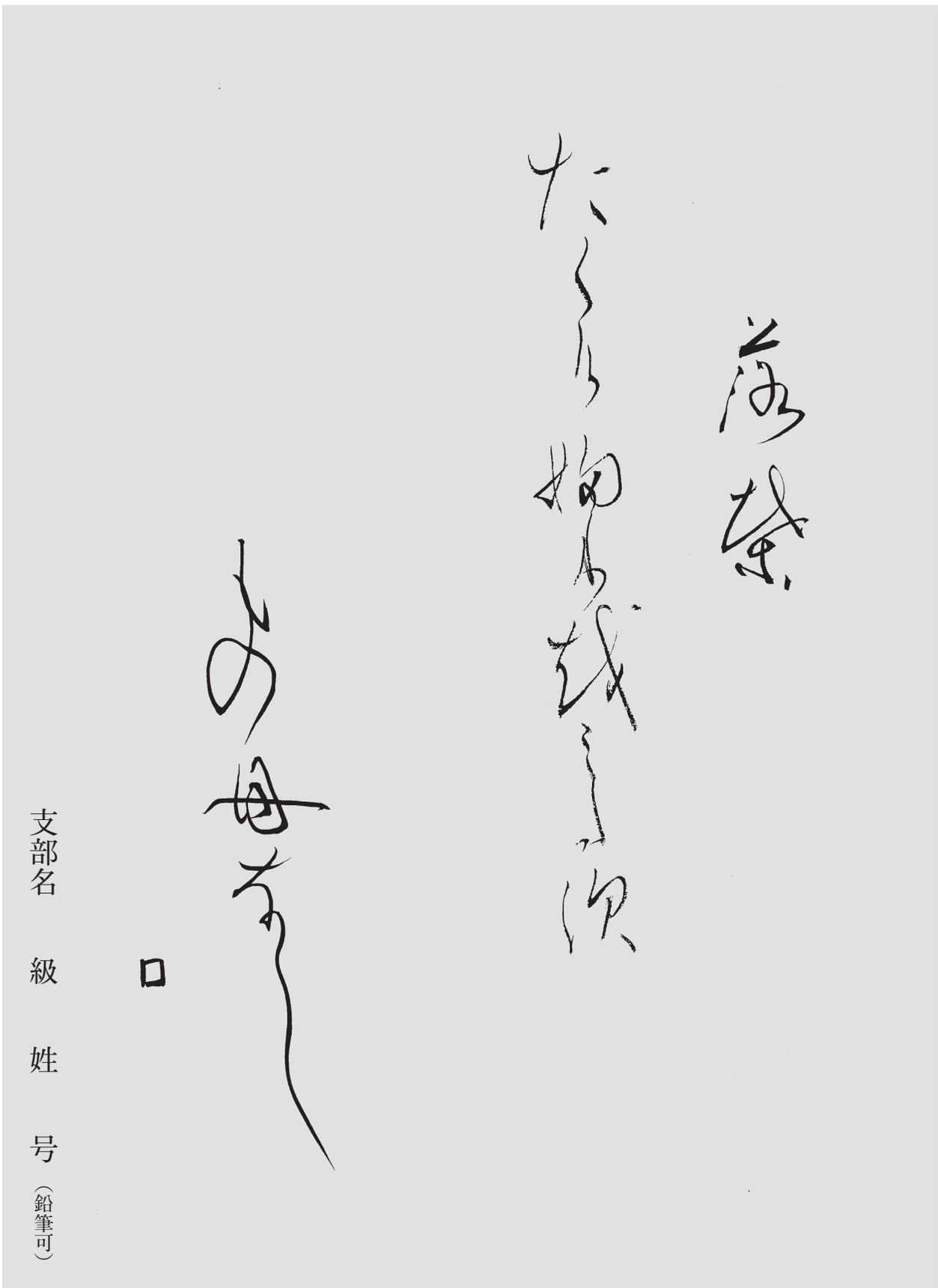
浮乗清郷先生

（11月10日締切）

半紙かな（１級～８級）

落葉焚く煙を乱すものもなし（高浜虚子）

介緒利越三多須母奈



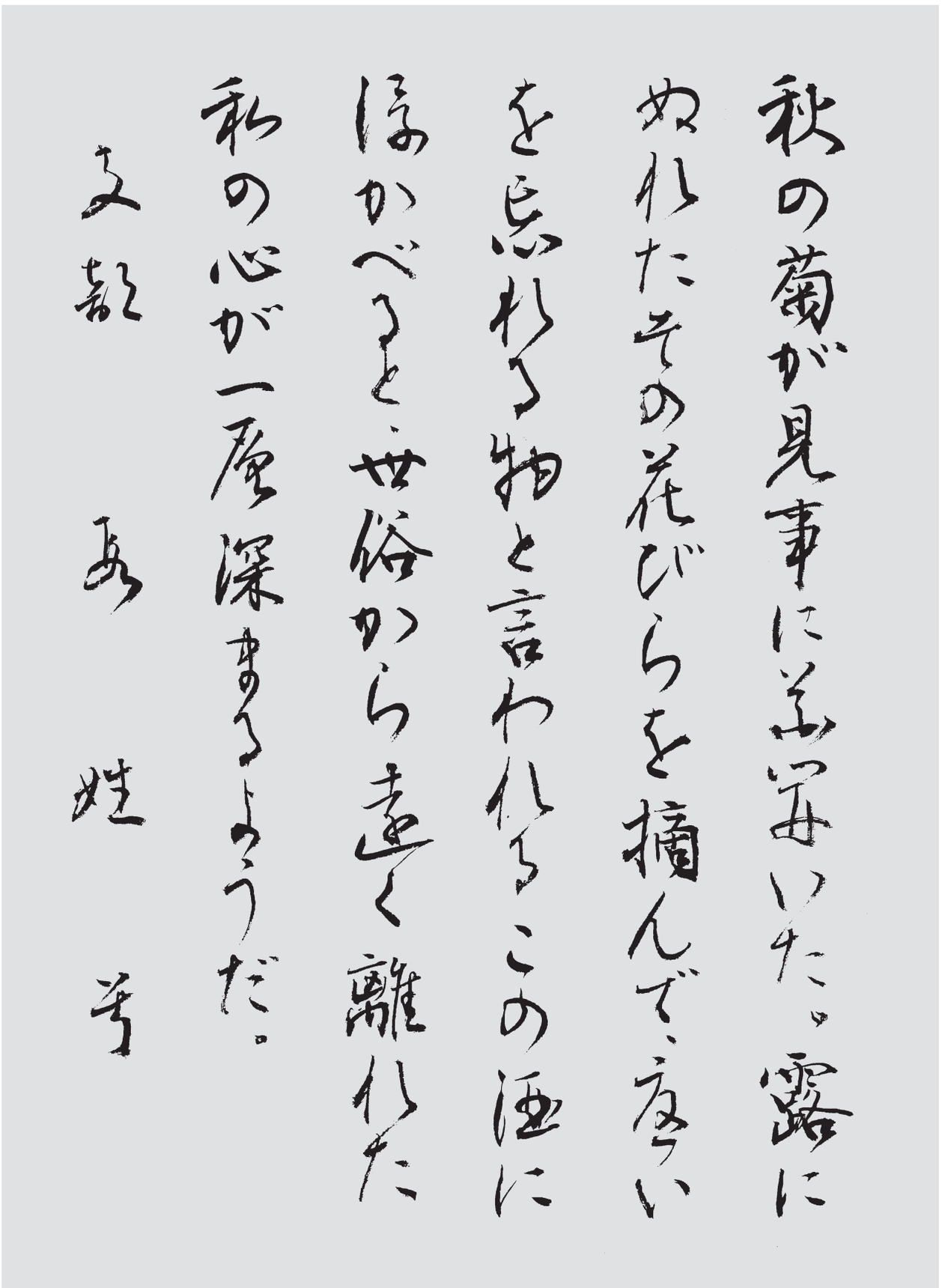
支部名　級　姓　号（鉛筆可）

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由

小林素水先生

（11月10日締切）

実用文（準三段以上）



〈書風任意〉…見事に花開いた。…摘んで、憂いを忘れる物と…この酒に浮かべると、世俗から遠く…一層深まるようだ。
（陶淵明詩「飲酒」其の七　より）

主幹　菅野翠濤

（11月10日締切）

実用文（二段以下）

〈書風任意〉

手紙や葉書での時候の挨拶は、
日本特有の表現法だと言われ
ています。これには、漢語調と
口語調の表し方があります。

段級　姓
支部名　号

渡邊南嶂先生

（11月10日締切）

細　　字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より
P56

支部　　段級　　姓　　号

（名前は必ず楷書で書くこと）

※一級～八級は草書まで。　初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17cm（よこ）×24cm（たて）

炊（すい）餐（さん）　食事のにたきや、料理をする。

（11月10日締切）

硬筆（初段以上）

小さな真っ赤な実を付け、紅葉がきれいな七竈。夏には白い花を咲かせ、北國を代表する樹木として親しまれている。七度焼くと良質の炭になるという説がある。

支部名　　氏名

…きれいな七竈（ななかまど）。…北國を…樹木として…七度焼くと…。

青柳江雲先生

（11月10日締切）

硬筆（1級～3級）

筆供養とは役目を終えた筆に感謝し
書の上達を祈願する行事です。
支部名　級　姓　号

齋藤翡流先生

硬筆（4級以下）

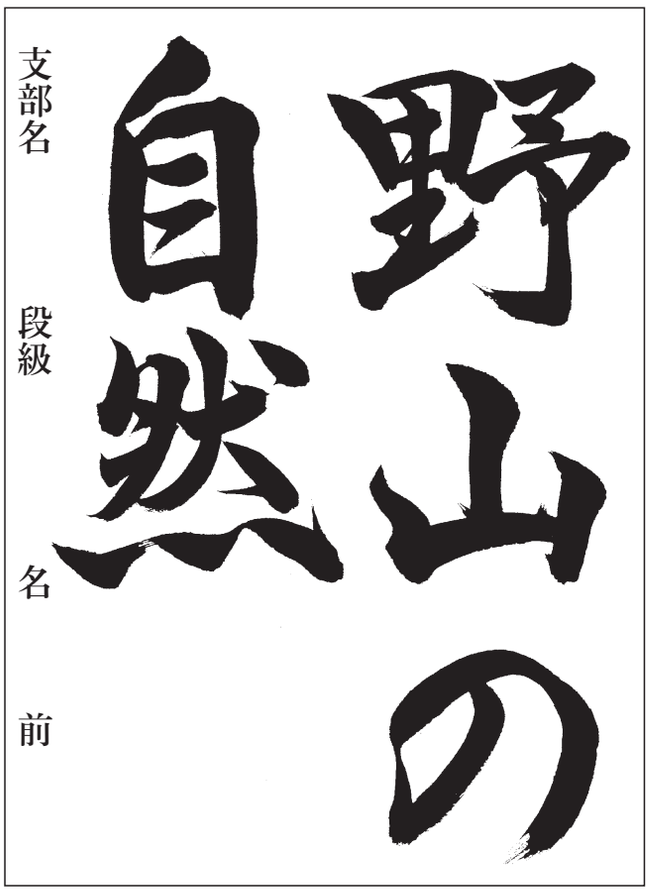
本院定型用紙・たて半分に書く

筆供養とは役目を終えた筆に感謝し
書の上達を祈願する行事です。
支部名　級　姓　号

齋藤翡流先生

（11月10日締切）

中２用



中３用

小６用

中１用

（11月10日締切）

小4用

支部名　段級　名前

大越三宗先生

小5用

支部名　段級　名前

大越三宗先生

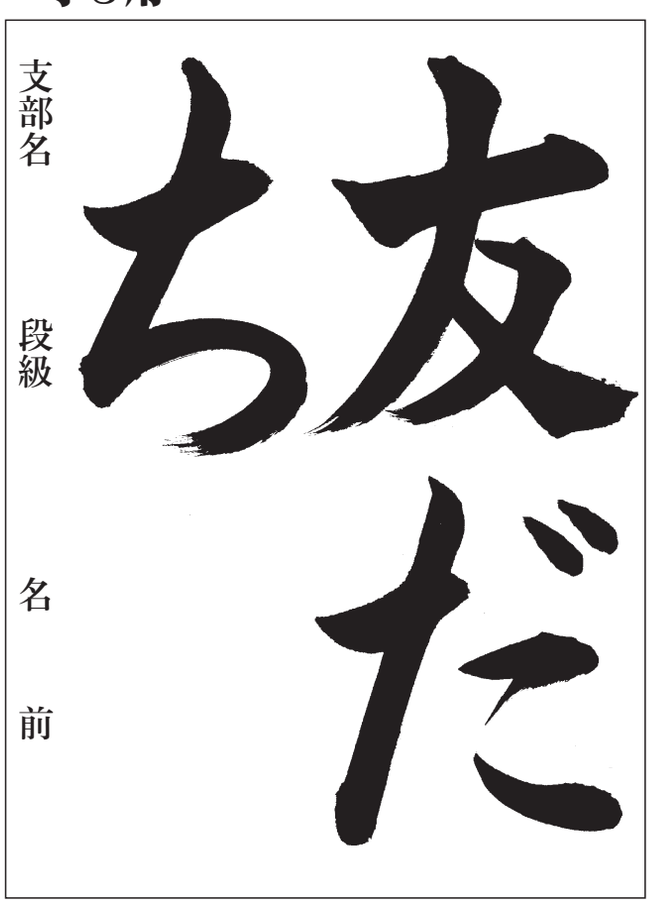
小2用

支部名　段級　名前

鈴木翡恵先生

小3用

支部名　段級　名前



鈴木翡恵先生

（11月10日締切）

中　1

読書、スポーツ、芸術
食欲の秋でもある。

中1～中3

中　2

昨夜の強風もおさまり
今朝は青空になった。

青　柳　江　雲　先　生

中　3

国際的な視野を持つ人
間に成長してほしい。

小1・幼年用

支部名

段級

名前

鈴木翡恵先生

小1・幼年

ゆうやけぞらが、いっ
ぱいにひろがる。

小1～小3

小　2

青い空には、お日さま
ががかがやいている。

鈴　木　蕙

小　3

夕日をあびて、雲が赤
い色にそまっている。

翠　先　生

小　4

ふく風に、さわやかな
秋の色が感じられる。

小4～小6

小　5

秋に入ったら、雨の回
数が多くなってきた。

田　辺　翠

小　6

秋風が、今年も木の葉
を鳴らしています。

鶴　先　生

（11月10日締切）

小学部小筆課題

秋深し
山道歩く

支部名　段級　名前

主幹　菅野翠濤

中学部かな課題

あらし吹く
草の中より
今日の月

支部名　段級　名前

船久保棠苑先生

半紙半分に書いて下さい　（11月10日締切）　半紙半分に書いて下さい

漢字筆順表（教育漢字）

◇せ

【績】績（17画）
【籍】籍（20画）
【切】切（4画）
【折】折（7画）
【拙】拙（8画）
【窃】窃（9画）
【接】接（11画）
【設】設（11画）
【雪】雪（11画）
【摂】摂（13画）
【節】節（13画）
【説】説（14画）
【舌】舌（6画）
【絶】絶（12画）

【千】千（3画）
【川】川（3画）
【仙】仙（5画）
【占】占（5画）
【先】先（6画）
【宣】宣（9画）
【専】専（9画）
【泉】泉（9画）
【浅】浅（9画）
【洗】洗（9画）
【染】染（9画）
【扇】扇（10画）
【栓】栓（10画）
【旋】旋（11画）

参　考　手　本

明河白雲に似たり

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。